

特集 この秋、日本橋でアートに触れる

# 画廊めぐり



忙しい毎日に、ちよつとでもアートを取り入れたら、生活がぐつと豊かなものになるかもしれない。

美術館もいろいろ、

日本橋は画廊の宝庫。

せっかくなら、個性的な画廊の楽しみ方も知ってみたい。みるだけで大丈夫。

肩肘はらず、日本橋の画廊に足を運んでみよう。



●不忍画廊  
池田満寿夫「涙」1980

## 三溪洞

日本橋の旦那衆が集った、創業明治4年の老舗画廊。  
明治以降の著名な作家の絵画、工芸作品を中心に扱う。



鈴木信太郎「ばら」

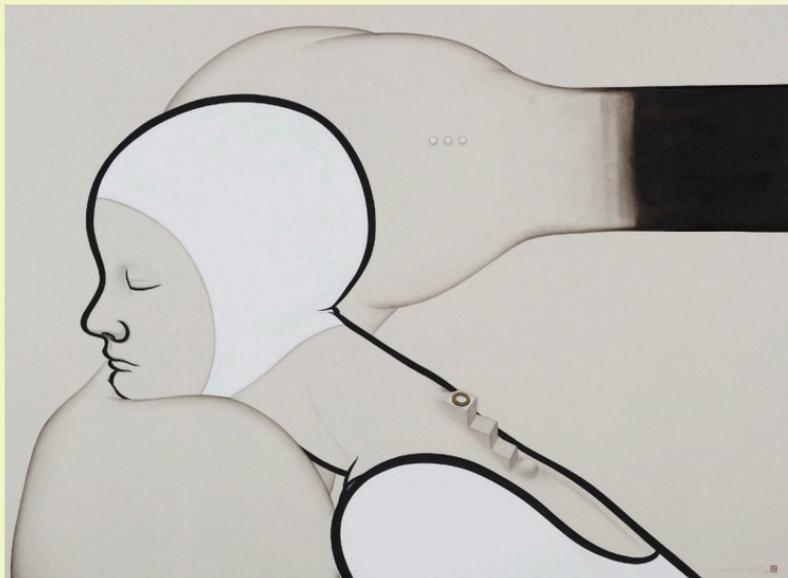


松尾敏男「青韻」

## 不忍画廊



駒井哲郎「風」  
1958



町田久美「遺跡」2014

## 西村画廊

イギリスの現代美術を日本で初めて紹介。また草間弥生の帰国第1回個展を開催するなど数々の日本人作家を世に送り出した、日本における現代美術画廊の先駆者。



山田純嗣「14・5」秋冬山水秋景」2014

池田満寿夫、駒井哲郎などの近代美術の作家から、山田純嗣はじめ最新の現代美術作家まで扱う異色の画廊。



田鎖幹夫「北へ」

## ギャラリー砂翁&トモス

オリジナルキャンドルのデザイン製造会社が開いた現代美術画廊。国内外の作家の絵画、版画、彫刻、オブジェ、クラフトなど、さまざまなジャンルの個展を開催する。

## 椿近代画廊

平成19年に創業地の新宿から日本橋に移転した椿近代画廊。現代作家に加え、60年代に活躍した現代美術の物故作家も扱う。



猪飼節子「即興詩—青」2010